

2026年3月9日(月)

老球の細道910号

青天の霹靂(へきれき)④

会津バスケットボール協会 室井 冨仁

がんの治療には「3大治療」がある。「手術」「放射線療法」「薬物療法(抗がん剤治療)」の3つである。最初は内視鏡手術だけで治療が終われば良いと願っていたが、残念ながら病巣が「ステージ0」でなかったため、治療は手術と抗がん剤治療に確定した。

食道がんの手術は色々な本やインターネットなどで調べて見ると、手術は困難で、外科医の高いスキルを必要とし、術後のQOL(生活の質)も相当低下すると説明されていた。担当の医師にも手術の方法を聞いたら、私にとっては想像を絶するものだったので、マイナス思考に陥ることなく、来るべき「Xデー」を静かな気持ちで待つようにした。

担当の医師に「手術は痛いですか?」と聞いたら、「大丈夫です。寝ているうちに手術は終わっていますから」という返答だった。脊柱管狭窄症の手術の時もそうだったが、手術というのはだいたいいつのまにか終わっている。問題は手術後から地獄の日々が始まる。治療まで短かければラッキーだし、長ければ試練の日々となる。

治療開始に向けて、医師から手術と抗がん剤治療で治療しますと説明された。私は何もわからないので担当医の先生に全てをお任せするしかない。世の中には、がんの治療法と称するものが数えきれないほどあるが、その中に医学的に正しいものから、まったくのインチキまで、さまざまなものが混在している。そうした中から1人ひとりに合った最適な治療法として、保険が適用できる「標準治療」がある。「標準」という名称が、「ありきたりな」「たいしたことない」「並みの」といったイメージがもたれがちであるが、実際は、全世界で認められた最善の治療、科学的根拠のあるゴールデン・スタンダードだから、保険の適用になっている。竹田病院においてもがん治療はすべて標準治療に準拠しているようであるから安心した。

いよいよ食道がんとの長い闘いが始まる。11月からスタートして1月末に手術、2月末に退院してから術後の回復まで半年近くかかる予定である。あまりにも長いので、途中で、あせらず、あわてず、あきらめないために、この治療期間の闘いをバスケットボールゲームの4Qに例えてみた。

1Q・・・健康診断からがん告知まで:とりあえず終了。理不尽ながらも受容と覚悟。

2Q・・・竹田病院における3回の抗がん剤治療入院:人生の初体験。負けなかった。

3Q・・・手術;術後2日目に目覚め。体中にチューブが装着され別人28号へ。

4Q・・・術後から元の状態へ回復と再発予防:ゲームと同じ、最後まであきらめない。

長期期間を短期期間に分割することによって、それぞれの短期間目標に集中して取り組み、始まればいつの間にか終わっているという状態を作りたかった。後悔の「過去」、不安の「未来」に左右されてネガティブにならず、「今、この瞬間」に集中して、常にポジティブでいられることを念頭においた。バスケットで学んだメンタルががんにも勝てるだろうか。〈続〉